

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	それあ〜ど			
○保護者評価実施期間	2025年10月17日		～	2025年11月14日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	11	(回答者数)	6
○従業者評価実施期間	2025年10月17日		～	2025年11月14日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	8	(回答者数)	8
○事業者向け自己評価表作成日	2026(令和8)1月14日(水)			

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	支援室の環境が整っている。	支援室が広いので、そのスペースを活かし、放課後等デイサービスえるびすと合同でポッチャ大会・運動会・夏祭りなどの企画を実施しています。また、ボランティア団体を招くなど、ご利用者が多様な体験を楽しめるよう工夫している。 日頃の支援においては、マット上で横になって過ごすご利用者や吸引などの医療的ケアを受けているご利用者と、歩行や自力移動が可能なご利用者との動線を分けやすく、物理的にリスク回避がしやすい環境となっている。	視覚的な情報が手がかりに理解しやすいご利用者が多いため、トイレの場所やおもちゃ・絵本の収納場所などを分かりやすく示す視覚情報(表示やイラスト等)を活用するなど、環境面での工夫を行うとよい。 また、さまざまな音楽を聴く機会を設けることは、ご本人の好みの幅を広げることにつながるため、支援の中に取り入れることも有効である。
2	適切な支援の提供ができています。	個別支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者とケース担当者を中心に、計画書の読み合わせを行いながら意見を出し合い、最善の支援内容について検討している。会議に参加していない職員にも内容を共有し、支援方針の共通理解を図っている。 また、計画書作成の会議とは別に日常支援の振り返りも行い、ご利用者の状況に合わせて迅速な対応ができる体制を整えている。	今後も職員間で振り返りを行いながら、利用者一人ひとりに合った支援の充実に努めていく。 支援プログラムはホームページ上で公開しているが、十分に周知されていないため、ホームページ内の掲載場所を分かりやすく案内し、周知を進めていく。
3	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言を行っている。	お迎え時には見送りのタイミングがあるため、些細なことでも気軽に話しやすい関係が築かれている。時間外であっても、保護者からの相談に寄り添い対応している様子が見受けられる。入院や進級などの節目で悩みを抱える保護者もいるため、親身に寄り添った対応を心がけている。	年に2回モニタリングの機会があり、保護者とじっくり話すことができているが、日々のお迎え時にも顔を合わせる機会があるため、その時の保護者やご利用者の様子にも気を配りながら、継続して丁寧なコミュニケーションを行っていききたい。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	児童発達支援事業所と放課後等デイサービスとの情報共有の仕組みが十分ではないため、今後は連携を深めるための情報共有の機会や体制づくりを進めていきたい。	相談員から直接伝えてもらうシステムがないため、保護者の了承を得てから相談員に聞いている。
2	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)に参加したいと思っているが、なかなかできない。	ジョブメドレーアカデミーを活用して、1年間の研修プログラムに家族支援を入れるようにする。 家族等の参加できる研修の機会や情報提供は、掲示だけでなく、内容によっては全員に渡せるようにしていく。
3	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	日頃の支援業務を優先しているため、これまで事業所の行事に地域住民を招待する取り組みは行っていない。	2年前には、近隣のくすのき保育園の園児に来ていただき、歌を披露してもらうなど地域との交流を行った。今後は小さな取り組みから始められる方法について、他事業所の事例を参考にするなどしながら、地域との交流の機会づくりについて検討していきたい。